



## 明日のパン

秋晴れの9月の最終日曜日に「スクールフェア」に来てくれた皆さんお疲れ様でした。今年の中3だけでなく中1と中2も顔を見せてくれましたが、きっと実りある相談ができたことと思います。

さてその前の台風接近の連休に塾内をちょっとリフォームして本棚を増設しました。もちろん手作りですが、耐震性も考えてちょっと凝った設計にしたので思いのほか時間がかかってしまいました。でもこれであちこちにあふれかえっていた本が少しはすっきり収まるようになりました。その本棚にはまだしまっていないが、今年になってから読んだ本でもっとも心に残っている小説が「昨夜のカレー、明日のパン」という木皿泉さんの作品です。本職はテレビの脚本を書いているご夫婦が初めての小説を書きました。普通なのだけれどちょっと脱力系の登場人物の何気ない日常を描いていますが、生きているということの意味を思い出させてくれ、何度も読み返したくなります。小説の中では明日のパンを買いに行くことが「生きていく意思」として描かれています。

ところで皆さんが明日も生きていける糧として、親や先生そして塾が何を授けてあげられるか、これから先の人生を過ごすためのアイテムは何かということを見ると、それは「じっくり考えることのできる力」ではないでしょうか。よく感じるのは1対1対応に慣らされ過ぎていることです。身近な勉強の例でいえば英単語の和訳を1語だけで覚えようとしていたり、理科や社会の問題で選択肢を2つ以上組み合わせでできている問題だととたんに選べなくなったりということです。答えが一つだけだと思い込むのも悪い癖。歴史上の人物でも良い人か悪い人かという基準しかもたないため、その時代を深く掘り下げることができません。もちろん学校のテストでも入試でも、正解は一つとして問題を作っていますからそれに慣らされていて当然かもしれません。でも少なくともこの塾では、なぜそうなのかを説明し一緒に考える過程を大切にしたいと思います。昨夜のカレーの方が味がなじんでおいしくなるのと同じように。